

かわら版

人生二毛作

公益財団法人  
長野県長寿社会開発センター



〒380-0928  
長野市若里七丁目1番7号  
長野県社会福祉総合センター5F  
TEL 026-226-3741  
FAX 026-226-8327  
info@nicesenior.or.jp  
http://www.nicesenior.or.jp

み交わしたり、四季折々の手仕事を楽しまします。誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりが、木曾谷の暮らしを大らかに支えています。



今月号も県内各地で伺ったシニア世代に関する取組をお伝えします。

## 地域の茶の間ますや

地域づくり

### 木曾郡大桑村

木曾の宿場といえば奈良井宿や妻籠宿が有名ですが、木曾郡大桑村の野尻地域もかつての宿場の雰囲気や現代に伝える旧中山道のひとつです。その街道沿いの軒下に「地域の茶の間 ますや」という看板を掲げた民家があります。高齢者が集まる居場所に、と地元の女性が地域の協力を得て空き家を活用してはじめたコミュニティカフェです。



玄関の軒先に飾られたわら細工。手作りの“さるぼぼ”をあしらえたわら細工は「ますや」さんのトレードマークです。

それぞれが好きなものを持ち寄ってお茶を酌

## 男性を地域へ誘う“秘策”<sup>いざな</sup> 社会参加

上田市社協丸子ボランティア地域活動センターへ入るとカウンターに飾られた造花が目にとまりました。すると打ち合わせ用のテーブルに腰かけていた女性が教えてくださいました。「ハナショウブ(花菖蒲)よ」。丸めたカラフルな布を花に見立て、乾燥したハナショウブの穂先に埋め込んであります。カウンターに置かれた手作りの品々が気軽に立ち寄れる雰囲気を彩ります。

丸子ボランティア地域活動センターは上田市へ合併する以前の丸子町の時代から、地域の方々が寄り集まる場所として根付いています。ハナショウブと教えてくださいました方は年齢こそ

80歳半ばとのことでしたが、これから傾聴のボランティアへ出かけるのだそうです。



造花のハナショウブが飾られたセンターでは地元ボランティアの方々がミーティング中でした。

様々な企画を通じて地域活動に取り組んでいるセンターでは、新たな取組として男性向けの講座を企画したそうです。どうしたら男性を地域へ呼び込めるか。そこで思いついたのがコーヒーの講座でした。地元の有名なコーヒー店にダメ元で交渉したところ、快く引き受けていただいたとのこと。 “男心” (?) をくすぐる試みがきっと地域のつながりへ実を結ぶことでしょう。

## 気づく場の提供

社会参加

### シニア大学プログラム

**長**野市のごみ袋を取り囲み「知らなかったな～」と口ぐちに感心するシニア大生。長野市指定のごみ袋がユニバーサルデザインになっていたことをほとんどの学生が知りませんでした。この日の授業は『障がいを理解する』。前半は県の出前講座『信州あいサポート運動』の講義を受け、後半は『ながの盲ろう者りんごの会』の協力で視覚障がいについて理解を深めるための体験講座です。アイマスクを付けて飴をなめてみました。「え～何の味だろう？リンゴ？」「あっ、ブドウだ！」とあちらこちらで笑い声が上がりました。「人は目からの情報が8割です」と講師の話に納得しました。講師が持ち込んだ多くのユニバーサルデザインの器具を

手に取りながら話が弾みました。障がいになったからといって、すべてできなくなったわけではなく、このような便利な器具や、手を貸してもらうことで、可能になることがたくさんあり健常者と同じ生活がおくれます。

途中で視覚障がいになった方が、地域の草取りに誘われなくなりました。草取りができなくなったわけではなく、移動が不自由になっただけなのです。草取りの場所まで一緒に行ってくださいる方がいれば地域の方と一緒に草取りができるのです、と講師は話されました。

知ること、気づくこと、考えることは楽しいことだとシニア大の授業は教えてくれます。障がい理解の授業を通じて身近な人、身近なモノに改めて関心を寄せる機会になったようです。



長野市のごみ袋は手提げ部分の切れ込みのデザインでゴミ袋の種類が判別できます。切れ込みひとつが不燃ごみ用（赤）、ふたつがプラスチック用（黄）、切れ込みのない袋が一般の可燃物用（緑）です。



視覚障がい者用の腕時計です。文字盤に刻まれた凸部分に触れて時を読みます。